

# 美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



中庭展示 Vol.16 武田浩志「TAKEDA system vol.10」展示風景

## 目次 Contents

### 01 特集 日本列島に花開いた地域文化を一堂に —特別展「発掘された日本列島2021」—

- 02 展覧会コラム1 当館初の書の展覧会 「苫小牧ゆかりの書 蔵出し展」
- 02 クローズアップ1 カササギの市民調査を実施！
- 02 クローズアップ2 ミュージアムラボ「和綴じ本をつくろう」
- 03 展覧会コラム2 ラムサール条約登録湿地30年！ウトナイ湖の企画展を開催
- 03 展覧会コラム3 胆振日高の多彩な現代美術を紹介  
企画展「NITTAN ART FILE 4：土地の記憶 ～結晶化する表象」
- 04 コラム コイノボリ大火100年～当時の新聞記事から～
- 04 埋文センター活動報告／勇武津資料館通信
- 05 報告 令和3年度事業記録
- 06 令和3年春季展示室の貸出し事業／職員紹介／おしえて！クイーントマモス&チビモス
- 07 館長コラムNo.9／令和4年度展示会情報／PR次回特別展／展示室から／表紙の写真  
編集後記

特集

日本列島に花開いた地域文化を一堂に  
—特別展「発掘された日本列島2021」—



地域展示



特別展リーフレット



ミミズク土偶



銀装大刀

全国で毎年9,000件を超える発掘調査が行われていますが、その成果に触れる機会はなかなか多くありません。特に北海道で本州以南の発掘調査の成果に触れるのは困難です。「発掘された日本列島」展は文化庁などが主催の巡回展として、平成7年度から近年の特に注目された出土品を中心に、全国を巡回し国民が埋蔵文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深めることを目的に開催されています。今年で27回目の開催、北海道では実に14年ぶりの開催となります。

中核展示として、「我がまちが誇る遺跡」「新発見考古速報」「特集 記念物100年一次の100年に向けて」の3章構成となりました。「我がまちが誇る遺跡」では日本列島各地の多様な地域文化を、千葉県市原市・広島県福山市・山口県山口市の資料をもとに紹介しました。「新発見考古速報」では近年発掘調査された遺跡を中心に、全国各地の18遺跡約300点を速報展示しました。なかでもミミズク土偶や僧形神立像は多くの方が熱心にご覧になっていて、カメラで撮影する方も多くいました。

また、苫小牧市美術博物館の独自企画として、地域展示「環境をつくった人々」を実施しました。苫小牧市周辺には国指定史跡静川遺跡に代表される環壕状の遺構を持

つ遺跡が複数確認されています。これらは縄文時代中期後半から後期にかけて作られたと考えられており、本州以南では同時期の環壕状遺構はほとんど確認されていません。時期や規模的に他地域に類を見ないこれらの環壕はどのような目的で作られたのか、発掘調査の成果から明らかになったことを紹介しました。中核展示とあわせて同時期なのに違うこと、異なる時期なのに同じようなこと、をそれぞれ見ることで地域文化の多様さ、多種多様な考古資料の奥深さをご覧いただけたかと思います。

残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大によって、会期前半には一部地域からの来館の自粛のお願い、会期後半には緊急事態宣言による休館となってしまい、見に行きたかったけど行くことが出来なかったとのご意見も多くいただく結果となりました。

令和3年7月には「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されました。考古学への興味関心はこれからますます高まってくることでしょう。今回の特別展だけでなく、これからも苫小牧を中心とした地域の考古資料を展示などを通して考古学の楽しさ、奥深さを発信していきたいと思

岩波 連 (学芸員/考古学)



木製馬



三密回避のために別室での解説スライドトーク



## 展覧会 コラム1



展示室風景

## 当館初の書の展覧会 「苦小牧ゆかりの書 蔵出し展」

当館では地元書家を中心に優れた書作品を所蔵していますが、前身の苦小牧市博物館時代を含めて、書をテーマとする展覧会は開催されたことがありませんでした。収蔵品展「苦小牧ゆかりの書 蔵出し展」はタイトルどおり、今までお披露目されてこなかった当館所蔵の書作品にスポットを当て企画しました。

苦小牧出身や苦小牧で活動した書家として、安宅大海、太田義久、二階堂北翠、廣田岳洋、毛利壽海の作品を紹介しました。いずれも自身の作品を追求するのみならず、後進の指導も熱心に行いました。

他に苦小牧を訪れるなどゆかりのある書家として、「現代書道の父」と称された比田井天来をはじめ、北海道を代表する書家として漢字仮名交じりの口語文を題材とする近代詩文書を提唱した金子鷗亭、今上天皇の書道御進講を務めた桑原翠邦、北海道書道連盟設立に尽力した加納守拙の作品を紹介しました。

関連イベントとして苦小牧書道連盟・理事を務める大澤尚洋氏による展示解説スラ

イドトークも実施しました。当初用意していた席数では足りなくなるほどの参加があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

残念ながら新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言のため、会期の半分は臨時休館を余儀なくされました。その前後も不要不急の外出を控えるよう呼びかけられるなど、多くの方に気兼ねなく見ていただける状況ではなかったことは残念ですが、この展示を契機とし今後も調査研究を進めてまいります。

沖津 かな (主任学芸員/書)



大澤尚洋氏による展示解説

## クローズ アップ1

### カササギの市民調査を実施！

近所で「カササギ」という鳥を見たことがある方も多いのではないのでしょうか？

このカササギ、もともと苦小牧にいた鳥ではありません。今から約30年前の1990年代に室蘭などに突如として現れ、東へ分布を広げながら苦小牧にすみついたので。

実はカササギのように外部から入ってきた鳥が定着することは珍しく、侵入の経緯や個体数をしらべるため、研究者によって10年前と5年前に個体数調査が行われています。

今年度、当館はカササギの調査を行ってきたNPO法人エンビジョン環境保全事務所と共同して、5年ぶりに市内の個体数の調査を行いました。調査範囲は市内全域のため我々だけでは手が足りず、25名以上の

市民の方がボランティアとして協力してくださいました。そのおかげで4月から7月の間に、市内のほぼ全域を調べることができました。現在は調査データの解析を行っており、近いうちに結果を公表したいと考えています。

江崎 逸郎 (主任学芸員/自然史)



カササギと巣

## クローズアップ2

### ミュージアムラボ「和綴じ本をつくろう」

令和3年11月24日、11名の参加者をお迎えしてミュージアムラボ「和綴じ本をつくろう」を実施しました。日本の伝統的な製本方法である和綴じを体験してもらう本イベントでは、表紙には強制紙という手もみの和紙、中に綴じる紙には越前和紙と、本格的な材料を用いました。本を綴じる過程では、製本専用の目打ち針と目打ち叩きなど普段あまり触れることのない道具を使用しながら、昔の製本技術を学びました。当館所蔵の和綴じ本も展示し、今回体験した

四つ目綴じとはまた違う綴じ方についてもご紹介しました。

参加者からは、「実際に和紙を触って作れたのが良かった」、「今後自分の描いた絵などを和綴じにしてみたい」、「今回学んだ方法でオリジナルの本を作ってみる」といった声が聞かれました。美術博物館での体験や学習が皆様の生活や日常の楽しみに活かしていただけるように、今後も努めたいと思います。

小杉 宇海 (学芸員/歴史)



和綴じ風景

## 展覧会 コラム2

### ラムサール条約登録湿地30年！ウトナイ湖の企画展を開催

市内東部に位置するウトナイ湖が、湿地とそこにすむ水鳥を守るための国際条約「ラムサール条約」の登録湿地になって30年。その節目を記念して、ウトナイ湖の自然の魅力と現状を伝えることを目的に企画展を開催しました。

ウトナイ湖はハクチョウやガンなど渡り鳥の生息地として有名ですが、今回はウトナイ湖の持つ側面を広く知ってもらうために、ラムサール条約に登録された理由を知る展示（第I章）、ウトナイ湖の成り立ちや鳥、植物、昆虫、魚類、哺乳類など生息する生物とその現状を知る展示（第II章）、ウトナイ湖と人の関わりを知る展示（第III章）の3部構成で展開しました。

展示では、直径2mの球状のスクリーンに地図と渡りのルートを投影した映像や、足でボタンを踏むとタンチョウの声が聞こ

える展示など、感染対策を講じた体験型の展示を設置しました。また、生物を紹介するコーナーでは、花の色や形をそのまま残した植物の立体乾燥標本や希少種を含む昆虫の標本、ヒグマなど大型ほ乳類のはく製など、当館収蔵の標本約1,000点を一堂に展示しました。

本展は幸運にも、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていたため会期を全うすることができ、4,651名の方にご観覧いただきました。アンケートからは「標本がすばらしかった」「ウトナイ湖の自然の豊かさを感じた」との感想が多くありました。当館が収蔵する標本とウトナイ湖の自然の魅力、多くの方に伝えることができたのではと思います。

江崎 逸郎（主任学芸員／自然史）



会場の様子（第1展示室）



会場の様子（第2展示室）

## 展覧会 コラム3

### 胆振日高の多彩な現代美術を紹介

#### 企画展「NITTAN ART FILE 4：土地の記憶 ～結晶化する表象～」

基本理念の一つに「文化芸術活動の拠点としての美術館」を掲げる当館は、優れた芸術を広く発信するため、地域に根ざした活動を展開すると同時にその土地ならではの表現を紹介していく必要があります。そうした理念に基づき創始した企画展シリーズ「NITTAN ART FILE」(2015年～)では、当館の立地する北海道胆振・日高地方「日胆（にったん）」ゆかりのアーティストや、その土地をテーマとする作品を紹介してきました。

第4回目となる本展では、「土地の記憶」をテーマに、固有の場所につわる歴史やそこに蓄積されていく記憶を源泉とする表象—感覚的に思い浮かべられる知覚や心象、観念など—を、版画家・こだまみわこ、美術家・是恒さくら、写真家・佐藤祐治、構造家・山脇克彦という分野の異なるアーティストならではの視点に基づく表現により紹介しました。

「土地の記憶」とは、風土に根ざした土着的な生活や慣習、信仰の上で成立するものであり、寒空のもと大気中に結晶し宙を

舞う雪や雹（ひょう）、あるいは凍てつく大地に根づく氷や霜柱などと同様に、人々の土着の記憶の積み重ねが凝縮された“結晶体”と言うこともできるでしょう。アーティスト独自のフィルターを通して結晶化された表象の数々が展示された本展では、展示室のみならず、ラウンジや屋外にも作品が設置されるなど、意欲的な展示が印象に残りました。本展の開催が新たな「土地の記憶」の1ページとして、人々の脳裏に刻まれていくことを期待します。

細矢 久人（主査／美術）



是恒さくら作品（第1展示室）展示風景



山脇克彦《風織—KAZE ORI—》展示風景



## コイノボリ大火100年～当時の新聞記事から～

コイノボリ大火とは、大正10（1921）年5月1日に苦小牧で発生した火災です。当時の苦小牧町の人口が3,897戸・17,285名に対して、1,007戸・5,300名が被災し（1名死亡）、学校・役場などが焼失しました。各家庭で揚げた紙製の鯉のぼりに火がついて被害が拡大したことからその名が付いています。

この大火については、「美術博物館だよりNo.5」でも少し触れていますが、今回はまちの復興に一役買った存在をご紹介します。

「小樽新聞」は、火災による甚大な被害状況を報道し、復興に向けた支援を読者に

積極的に呼びかけました。義捐金や被災児童のための学用品を募り、「苦小牧大火罹災者義捐興行」と銘打った活動写真会を札幌で開催するなど、支援は多岐にわたりました。その結果、道内各地から集まった義捐金は、苦小牧王子製紙の5,000円に次ぐ総額3,037円。学用品の寄贈はすぐいっぱいになりました。復興の裏には、人々の思いやりの心があったのだと気づかされました。

佐藤 麻莉（学芸員／歴史）



義捐金をよびかける小樽新聞の記事

### 埋文センター活動報告

今年も苦小牧市埋蔵文化財調査センターでは市内の遺跡の調査を行いました。工事立会が3か所、所在調査が2か所、試掘調査が3か所、発見した落とし穴の調査を1か所で行いました。その結果、1か所の周知の遺跡の範囲確定と新たに6つの遺跡の登録を行いました。苦小牧西部の覚生川では、近年樽前山火山砂防工事に関係した試掘調査を実施しています。今年も覚生川の左岸で道路建設に伴い調査を行ったところ、落とし穴が13基確認されました。

落とし穴は今からおよそ4,000年前の縄文時代中期終わり頃から後期初頭にかけて作られたと考えられています。現地の標高は98mであり、市内で最も高い場所で見つかった遺跡となりました。これまで苦小牧市内の遺跡は標高10～20mの位置に集中していると考えられてきましたが、近年の調査で河川沿いの標高の高い地点でも落とし穴を発見していることがわかってきています。これで市内の遺跡は311か所となりました。

岩波 連（学芸員／考古・埋蔵文化財調査センター兼任）



覚生川左岸で確認された落とし穴の調査

### 勇武津資料館通信

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月からやっと平常開館となりましたが、体験教室の一部や、歴史散歩などが中止となりました。

ふるさと探訪「勇払の生き物調査（カササギ編）」（4月）では、営巣地の移動が確認されました。また、苦小牧市全体のカササギ調査のため、データを美術博物館に集める企画を実施しました。「勇払の植物観察会」は、広範囲に観察域を広げ、旧勇払川の湿地部と弁天地区の海浜を対象とした観察会を実施しました。

生活体験教室こどもの日の「べこもちをつくろう」では、大人が多かったのが興味深く感じました。「藍染に挑戦」も定番の教室で、親子の参加が大半で、早いうちに定員に達したほどで

した。シカの角の加工教室「根付に挑戦」は参加者が少なかった一方、「キーホルダーに挑戦」では、多くの親子にご参加いただきました。「石臼をひいてそばがきをつくろう」は定員の15名の参加でした。「くん製づくりに挑戦」は、ナッツ類のくん製が人気でした。「懐かしの音楽会」は今回初めてですが、

約90年前の蓄音機を使用しました。

ふるさと歴史講座の「河西祐助と梅（猪子）の家紋」と「歴史資料からみるユウフツ」、「勇払の生き物調査」、「勇払の植物観察会」が道民カレッジ連携講座です。

二階堂 啓也（事務員）



勇払の植物調査

# 報告

## 令和3年度 事業記録

### 《特別展》

#### ■発掘された日本列島2021

会期:7月31日(土)~9月12日(日)

入場者:1,428名

主催:文化庁/苫小牧市美術博物館/北海道新聞社/全国新聞事業協議会

協力:全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会/全国埋蔵文化財法人連絡協議会/公益財団法人元興寺文化財研究所/共同通信社/恵庭市教育委員会/千歳市教育委員会

後援:苫小牧信用金庫/北海道新聞苫小牧支社/株式会社苫小牧民報社/株式会社三星/全国史跡整備市町村協議会

#### ①学芸員によるスライドトーク(全3回)

日:8月1日(日)、8月7日(土)、8月22日(日)

参加者:82名

#### ②講演会「世界文化遺産と北の縄文遺跡群」

講師:長沼孝氏(公益財団法人北海道埋蔵文化財センター理事)

日:7月31日(土)

参加者:41名

### 《企画展》

#### ■コイノボリ大火と苫小牧消防史

会期:4月29日(木・祝)~7月4日(日)

入場者:1,764名

協力:いとう履物店/国立国会図書館/真宗寺/第一洋食店/苫小牧市消防本部/苫小牧市立中央図書館/苫小牧市立苫小牧東小学校/北海道立図書館/まるぜん呉服店

後援:苫小牧信用金庫/北海道新聞苫小牧支社/株式会社苫小牧民報社/株式会社三星

#### ①展示解説会

日:5月2日(日)、7月4日(日)

参加者:45名

#### ②こども消防体験

講師:苫小牧市消防本部

日:7月3日(土)

参加者:50名

#### ■ラムサール条約登録30年 ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来

会期:10月9日(土)~12月12日(日)

入場者:4,651名

協力:公益財団法人日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ/北海道大学植物園・博物館/北海道博物館/CISEネットワーク

後援:苫小牧信用金庫/北海道新聞苫小牧支社/株式会社苫小牧民報社/株式会社三星/北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部

#### ①担当学芸員の展示解説会

日:10月9日(土)、11月6日(土)、12月5日(日)

参加者:47名

#### ■NITTAN ART FILE 4: 土地の記憶~結晶化する表象

会期:令和4年1月15日(土)~3月13日(日)

協力:NPO法人樽前artyプラス

後援:苫小牧信用金庫/北海道新聞苫小牧支社/株式会社苫小牧民報社/株式会社三星/北海道新幹線×nittan地域戦略会議

#### ①アーティストトーク

日:1月15日(土)

参加者:33名

#### ②担当学芸員による展示解説

日:2月20日(日)

参加者:8名

### 《収蔵品展》

#### ■苫小牧ゆかりの書 蔵出し展

会期:4月29日(木・祝)~7月4日(日)

入場者:1,764名

#### ①解説スライドトーク

日:5月1日(土)

参加者:37名

#### ■鳥のいる風景

会期:10月9日(土)~12月12日(日)

入場者:4,651名

### 《中庭展示》

#### ■Vol.16 武田浩志 TAKEDAsystem vol.10

会期:4月29日(木・祝)~9月12日(日)

入場者:3,726名

協力:KIKUwoodworks株式会社

#### ①中庭特別鑑賞会(全15回)

参加者:184名

#### ■Vol.17 澁谷俊彦 雪待の庭「薄雪」/Snow Pallet 14

会期:10月9日(土)~令和4年3月13日(日)

### 《ロビー展示》

#### ■藤沢レオ 起源のモニュメント

会期:7月31日(土)~8月29日(日)

入場者:1,428名

### 《普及事業》

#### ■美術博物館大学講座

対象:一般 登録者数:78名

「北海道の木彫り熊」・入学式

講師:大谷茂之氏(八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 学芸員)

日:8月21日(土)

「北海道のゲンゴロウーその種類と生息環境」

講師:堀繁久氏(北海道博物館 学芸部長・学芸主幹)

日:10月23日(土)

「近世北海道における感染症対策~天然痘を事例に~」

講師:永野正宏氏(国立アイヌ民族博物館 文化庁企画調整課調査官)

日:11月13日(土)

「漂着物から海の世界を覗く」

講師:志賀健司氏(いしかり砂丘の風資料館 学芸主査)

日:12月4日(土)

「樺太、製紙工場、そして苫小牧」

講師:小杉宇海(当館学芸員)

日:1月29日(土)

「熊を記る~縄文からアイヌまで」

講師:若波連(当館学芸員)

日:2月19日(土)

「現代の書(概要)と本来の書とは」・卒業式

講師:大澤尚洋氏(苫小牧書道連盟 理事)

日:3月5日(土)

#### ■子ども広報部「びとこま」

共催:NPO法人樽前artyプラス

対象:小中学生 登録者数:15名

#### ■古文書解読講座

対象:高校生~一般

初級入門編(全5回) 参加者:52名

中級編(全2回) 参加者:29名

#### ■遺跡報告会

対象:一般

日:3月19日(土)

#### ■苫小牧市アイヌ施策推進事業

#### ①講演会「アットゥシ織りの世界」

講師:柴田幸宏氏(二風谷民芸組合)

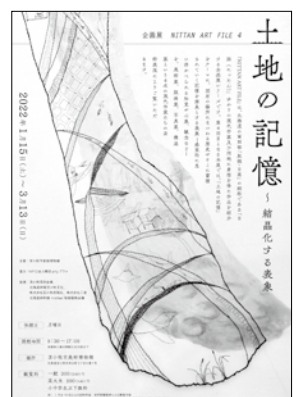
日:2月12日(土)

参加者:29名

#### ②講演会「発掘調査からわかるアイヌ文化」

講師:永谷幸人氏(伊達市教育委員会 学芸員)

日:3月6日(日)





### ■ミュージアムラボ

対象:幼児～一般

- ①博物館が伝えるハーバリウム～樹脂封入標本づくり～  
日:11月20日(土)  
参加者:12名
- ②和綴じ本をつくろう  
日:11月23日(火・祝)  
参加者:11名
- ③版画の技法であそぼう  
日:12月25日(土)  
参加者:16名
- ④書初め  
日:1月8日(土)  
参加者:18名
- ⑤あんぎん編みでコースターをつくろう  
日:2月11日(金・祝)  
参加者:17名

### ■無料開放日

- ①ゴーゴーミュージアム  
日:5月5日(水・祝)  
参加者:231名
- ②あみゅー秋のサンクスデー  
日:11月3日(水・祝)  
参加者:416名

### ■郷土学習

期間:9月～12月  
対象:市内小学校23校3・4年生  
参加者:1,526名

### ■教員のための博物館の日

共催:国立科学博物館／(公財)日本博物館協会  
後援:文部科学省  
対象:周辺地域の教員等  
参加者:48名  
日:8月6日(金)

### ■学芸員実習

日:8月19日(木)～8月28日(土)  
実習生:1名

### ■ボランティア研修会(全5回)

登録者数:45名

### ■総合学習・出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業

日:随時  
実施:11件

### ■新型コロナウイルス感染拡大により中止となった行事

- ・特別展「発掘された日本列島2021」学芸員によるスライドトーク
- ・企画展「コイノボリ大火と苫小牧消防史」ミニ纏をつくってみよう
- ・中庭展示「Vol.16 武田浩志 TAKEDA system vol.10」中庭特別鑑賞会
- ・大学講座「公文書館資料に見る、実現しなかった4つの「札幌オリンピック」」  
講師:高井俊哉氏(札幌市公文書館 元館長)
- ・大学講座「北海道のアートプロジェクトと彫刻公園」  
講師:久米淳之氏(北海道立近代美術館 学芸統括官)
- ・美術博物館祭 2021
- ・自然観察会「ウトナイ湖で水の生きもののさがし」
- ・歴史見学会「旧市街をあるく～コイノボリ大火ゆかりの地めぐり～」
- ・職場体験・インターンシップ

※各事業の入場者・参加者数は令和4年3月1日現在のものとする。

※明記の無い事業の主催は全て当館(苫小牧市、苫小牧市教育委員会)による。

※協力等は該当事業のみ記載。

※講師未記載は全て当館学芸員が担当。



## 令和3年春季 展示室の貸出し事業

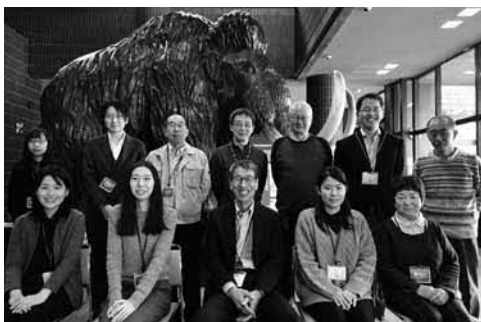
	展示内容	申請者	期間	来場者数(主催者集計)	展示室
1	苫小牧美術協会春季展	苫小牧美術協会	令和3年3月31日～4月4日	515名	第1・2・3

当館では、「市民に開かれた美術館」、「文化芸術活動の拠点としての美術館」という基本理念に基づき、市内で創作活動の実績のある個人や団体等に発表の場を提供することを目的として、毎年1回、展示室の貸出し事業を実施しています。令和2年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため臨時休館したことにより中止、令和3年は1団体に貸出しを実施し、主催者の意図したものが伝わった充実した展覧会となりました。

遠藤 久雄(主査)

## 職員紹介

苫小牧市美術博物館と勇武津資料館では、館長以下、学芸員、事務職員、受付職員等が協力して、研究・展示・教育などの事業に励んでいます。わからないこと、聞いてみたいことなどがありましたら、ぜひ気軽に私たちにお声かけください。



## おしえて！クイーンタマモス&チビモス

当館でここ数年、密かに活躍中のこの2頭。改めて皆様にご紹介します！

### Q1. プロフィールは？

#### ■クイーンタマモス(画像右)

30歳のやさしいお母さん。シベリア出身。  
体長:3m30cm 体重:ひみつ(6.5t)

#### ■チビモス(画像左)

1歳の元気な男の子。シベリア出身。 体長:90cm 体重:80kg  
将来の夢:あみゅーの館長になること



### Q2. モデルは？

当館のエントランスで皆様をお迎えしているマンモスの親子がモデルです。数万年前、大陸と陸続きとなった北海道に、マンモスを追ってはじめて人が移り住んだと考えられています。マンモスは、北海道の成り立ちと人の歴史の始まりを象徴する動物です。

### Q3. 名前の由来は？

苫小牧市博物館として1985年に開館した時、「マンモスの親子愛称募集」を実施して決定しました。他にはマンモ、はなこ、たろう等の候補があったそうです。

### Q4. グッズは無いの？

企画展会期中に年間観覧券をご購入いただいた方に、タマモス達のクリアファイルを進呈するキャンペーンを令和4年度も実施予定です！

今後ますます活躍しそうな2頭、ぜひ応援よろしくをお願いします。

## 館長コラムNO.9

令和4年は北海道博物館協会の第1回大会が函館市で開催されてから60年の節目です。初代会長武内収太（市立函館博物館館長）らと共に協会の立ち上げに尽力したのは、当時、市立苫小牧図書館館長の小野慶郎でした。昭和11（1936）年に苫小牧町役場に就職した小野は2年後に召集され中国東北部で負傷しますが、療養中に旅順や大連の博物館を見学した経

験が後の図書館や博物館の整備に活かされます。復職後、一貫して社会教育畑を歩み、図書その他、古文書や工芸品の収集も積極的に行いました。当館のアイヌ民族資料は小野が北海道大学教授河野広道所蔵のイクパスイヤタマサイなどを譲り受けたものが基礎となっています。小野の夢は苫小牧に本格的な図書館や博物館をつくることでした。勤務の傍ら司書資格、さらに学芸員資格も取得するなど勉学を続けたほか、苫小牧郷土文化研究会

の設立に参画し、昭和41（1966）年にはアイヌの丸木舟及び推進具（道有形文化財）の発掘調査を支えるなど、文化財の保存にも貢献しました。小野は晩年の自伝「真実の探求」のなかで本市の美術館設立の必要性についても触れています。博物館開館から37年、図書館新設から34年。私たちの施設には偉大な先人と地域の人々の夢が結晶化されています。（敬称略）

武田 正哉（館長／歴史）

### 令和4年度 展示会情報

○観覧料  
一般300円／高大生200円／中学生以下無料  
※団体割引、免除規定があります  
※特別展の観覧料はその都度定めます  
○年間観覧券  
一般900円／高大生600円  
※特別展は、特別展観覧料から通常観覧料を  
割り引いた額でご覧いただけます。

#### 特別展

■トヨタ自動車北海道創業30周年記念事業  
特別展 芸術の都ウィーンとデザインの潮流  
7月16日（土）～8月28日（日）

■《芽の出る音》50年記念 谷内六郎展  
9月17日（土）～11月6日（日）

#### 企画展

■アイヌ刀一エムシ・タンネパイコロ・タクネ  
パイコロ  
4月29日（金・祝）～6月26日（日）

#### ■あみゆー大博覧会2022

11月26日（土）～令和5年1月15日（日）

#### ■生誕100年記念 能登正智展

令和5年1月28日（土）～3月12日（日）

#### 収藏品展

##### ■動物の絵

4月29日（金・祝）～6月26日（日）

#### 中庭展示

##### ■Vol.18「川上りえ」

4月29日（金・祝）～令和5年3月12日（日）

#### 美術博物館祭2022 7月30日（土）～7月31日（日）

#### 無料観覧日：5月5日（木・祝）、11月3日（木・祝）

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。  
ご了承ください。

### PR 次回 特別展

令和4年度の特別展は、2本立てとなります。トヨタ自動車北海道株式会社創業30周年記念事業特別展 芸術の都ウィーンとデザインの潮流では、クリムトやシーレをはじめとする巨匠の作品を紹介。一方、科学センターの壁画でも親しまれる、谷内六郎の《芽の出る音》設置50年を記念した特別展もおこないます！

### 収蔵資料紹介 展示室から



#### 第一収蔵展示室・ミニギャラリー 絵画でめぐる苫小牧の四季

今年度より、常設展示室一階第一収蔵展示室で、季節ごとに当館収蔵の絵画作品を紹介するミニギャラリーを開設しました。

当館収蔵の美術作品は、昭和35年6月に旧図書館内に開設した郷土博物館によってはじめられ、現在では約1,500点にのぼる作品を収蔵しています。なかでも絵画作品は、北海道を代表する画家や、苫小牧にゆかりのある画家による北海道の豊かな自然を描いた作品が多いことが特徴です。

ミニギャラリーでは、季節にあわせて作品の展示替えをしています。勇払原野や樽前山麓の豊かな自然の四季折々の表情を捉えた画家たちのまなざし、絵画でめぐる北海道、苫小牧の四季の風景をお楽しみいただくと幸いです。

立石 絵梨子（学芸員／美術）

#### 公式 Facebook・Twitter 更新中！



#### 表紙の写真

中庭展示 Vol.16で紹介した「TAKEDAsystem vol.10」は、アートを発信する「システム＝仕組み・制度」としての「ギャラリー」を設置する武田の作品シリーズ（2002～）の10作目。中庭という限定的な空間において展開する本作は、武田のカラフルな絵画をその内部に展示することで、入れ子の構造を備えたユニークなインスタレーションとなりました。

細矢 久人（主査／美術）

■編集後記 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、休館や事業の中止を余儀なくされました。今年こそはみなさまにたくさんお会いできるよう職員一同心より願っています。  
佐藤 麻莉（学芸員／歴史）

苫小牧市  
美術博物館だより

令和4年3月31日発行・第9号

編集・発行：苫小牧市美術博物館（あみゆー） 〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7  
TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで） 休館日：毎週月曜（祝日の場合は次の平日）、年末年始